

札幌市立福住小学校の取組

(学校ホームページ：<http://www.fukuzumi-e.sapporo-c.ed.jp>)

1. 学校紹介

本校は、全校児童約 740 名の地域では大きな規模の学校です。本校では、長年、読書活動に積極的に取り組み、地域のボランティアの方々の協力も得ながら、朝の読み聞かせや全校一斉読み聞かせなどを継続して行っています。また、地域には運動ができる広い公園や、プロスポーツを観戦できる札幌ドームがあり、運動に親しみやすい環境にあります。現在、学校研究のテーマとして体育を取り上げ、学校として、子どもの体力向上に努めているところです。

2. 取組のねらい

本校では、学校評価の項目として、「児童は、運動に親しんでいる。」を設け、子どもの運動に対する取組の改善に努めてきました。昨年度は、体育委員会による「なわ跳び検定」の成果を確かめることができましたが、子どもたちに定着するところまではいきませんでした。特に、「運動に親しんでいる子とそうでない子がいる」という二極化の傾向が見られました。今年度はさらに、なわ跳びに対する取組を拡充させて、運動に対する取組を広げていく改善を目指してきました。

設問項目（教師による評価）

平成 22 年度末

「児童が運動に親しんでいる」

→【2. 68】

(A=4点、B=3点、C=2点、D=1点)

3. なわ跳び検定を 2 回実施（7 月：シーズンⅠ、9 月：シーズンⅡ）

昨年度は 9 月に 1 回行うことでスタートしたなわ跳び検定を、今年度は 7 月（2 週間）と 9 月（4 週間）の 2 回に分けて実施することとしました。活動の中心は、児童会活動の体育委員会が中心となって行いました。

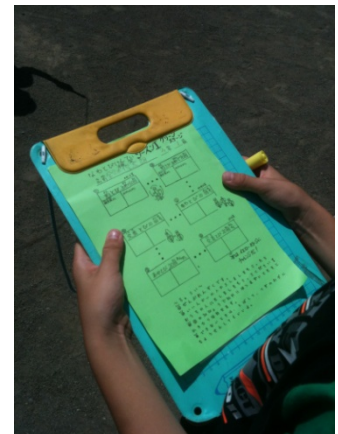
（1）7 月になわ跳び検定を加えた理由

夏季休業をはさんで、7 月と 9 月に行うことで、7 月から取組を継続している検定カードを家庭に持ち帰ることができます。検定カードには、あらかじめ体育委員が合格マークを押す枠の他に、家庭においても保護者から合格マークをもらえる枠を設けました。また、7 月の検定で、体育委員の役割を確認したり、仕事内容を振り返ったりすることにより、9 月の検定を円滑に行うことができました。

（2）夏季休業中の取組の成果

特に、低学年児童の努力が顕著であり、7 月にはできなかった技を夏季休業中に練習して、できるようになった児童もたくさんいました。2 学期初めの体育の授業で成果を確かめることにより、子どもたちも自分自身の成長を実感することができました。

また、この取組により、学校が子どもの体力向上を重要な課題



として捉えていることを家庭に周知することができ、保護者の理解や協力を得ることができました。子どもたち自身が成長を感じ、その姿を見た保護者が子どもたちを応援し、さらに子どもたちが努力するという、よいサイクルが生まれ、保護者アンケートでは、もっと学校の取組としてなわ跳び検定の活動を盛り上げてほしいという意見も見られました。

(3) 9月の検定に向けての取組

9月の全校朝会で、7月や夏季休業中に努力した児童を紹介することで、さらに子どもたちの意欲を高めました。児童会の体育委員が中心となって取り組むことで、子



私は体育が苦手だったけど、なわ跳び検定をしているうちに、なわ跳びが得意になったので、よかったです。

(参加した児童の感想)

なわ跳び検定の企画運営をして、二重跳びやハヤブサができるようになった人がいてよかったです。

(体育委員の感想)

どもたち自身が、自ら盛り上げる活動となるよう配慮しました。また、9月中旬には、お昼の放送でなわ跳び検定について呼びかけたり、がんばった児童の感想を紹介したりしました。

4 集団跳びへの挑戦

練習してきた一人跳びの取組を生かして、集団跳びにも取り組みました。連帯感をもって取り組むことができる集団跳びでは、子どもたちのやる気もさらに高まり、達成したときの喜びも一層強まります。そこで、学年集会において、長なわ跳びを取り入れました。

種目は、まず単純に駆け抜ける種目から始めました。今後は、跳んでから抜けることなどの種目を取り入れて改善していくことができます。

(1) 取組の成果と課題

体育の準備活動に子どもたち自らがウォーミングアップに取り入れたり、休み時間に集まって練習したりする姿が見られるようになりました。また、体力や運動能力に自信のない子どもが、仲間からの関わりによって、できるようになる姿も見られました。なわに入る、なわを跳ぶというタイミングをそろえるために、手をつないで運動したり、仲間の掛け声に合わせたりすることで、自信を高めたり、達成感を味わうことができました。今後は、校内で長なわ跳びの取組を広めて、全学年が取り組めるようにしていきたいと考えています。

5. 課題

特別活動を生かした体力向上に関わる実践研究に取り組んできた中で、効果的に一人一人の技能や能力を高めるには、体育科の学習内容と関連を図る必要があることを改めて感じました。教育課程編成の際に、体力向上に関わる取組と体育科の学習が相乗効果を生むような工夫が必要です。また、なわ跳びに関しては、一人跳びと集団跳びの種目を精選し、どの学校でも取り組めるような汎用性の高い仕組みを確立して、多くの学校に広めていくことが今後の課題と考えています。

設問項目 (教師による評価)

平成23年度末

「児童が運動に親しんでいる」

→【3. 03】

(運動の楽しさを味わっている

子どもが増えた等の成果)